

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 ハビリス		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025/3/12
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025/2/28
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025/3/15
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○小児経験のある理学療法士が2名体制で支援 発達領域と重心・医ケアそれぞれ担当制で行っている。	○病院等の専門療育機関と情報共有を図りながら、連携 を行っている。	○地域で保育所等訪問支援を実施している事業所がほ とんどなく、自立支援協議会を通して地域支援の必要 性を投げ掛けている。
2	○訪問先施設のニーズに合わせて、研修会の実施。	○児童との関わり方や環境面の工夫など、実例に合わせ た内容で研修会を実施しました。	○幼稚園・保育園では、外部機関に相談する機会が少 なく、保育所等訪問支援に限らない支援体制が必要。
3	○訪問先施設の訪問支援に対する評価は高く、満足度も高 い。	○訪問先のニーズに合わせて、関わり方や環境調整の工 夫を伝えている。報告書を作成することで、先生と フィードバックする機会を設け、引継ぎ支援にも役立 てている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○保育所等訪問支援の認知度が低い。	○障害福祉サービスとして提供される保育所等訪問支援 であるせいか、厚生労働省と文部科学省の管轄下の違い で、支援の受け入れに大きな差がある。	○教育分野への保育所等訪問支援の認知度向上に向け た取り組みが必要と思われる。
2	○家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族 が参加できる研修機会を組むことが難しい。	○本人支援に加え、訪問先施設の支援、家族支援も必要 になってくるが、ニーズが多岐に渡り、支援も多様にな り、対応しきれないケースがある。	○地域課題として捉え、こども発達相談センター等と 協力し、地域ニーズに対応していく必要があると思わ れる。
3			